




# 子供の発達を支える 生徒指導のアップデート

## 発達を支える生徒指導って？

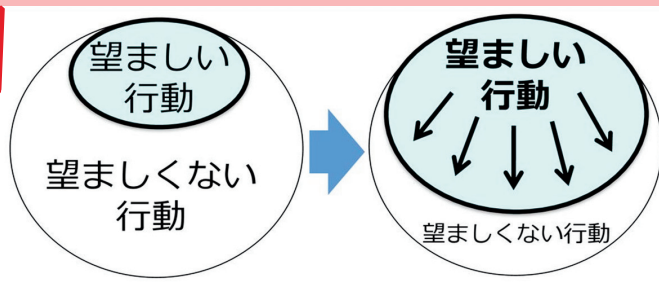


生徒指導においては、今までと同様、いじめや不登校、暴力行為など特定の子供に焦点化した指導・援助が必要ですが、それ以上に課題を未然に防止するための常態的・先行的な対応である「発達支持的生徒指導」の充実が求められています。

### 発達支持的生徒指導

対象	全ての児童生徒 
手立て	児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけ
重点	児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達」を支える

子供の成長・発達を支えるためには、「望ましい行動」を褒め、認めることが重要です！



子供たちは、例えば「廊下を静かに歩く」といった「望ましい行動」と、「廊下を走る」といった「望ましくない行動」を同時にすることはできません。また、子供は、いつも望ましくない行動ばかりをしているわけではありません。

望ましい行動を褒め、認めることで、望ましい行動をする子供の数や頻度が増えます。その結果、望ましくない行動が減るというメリットがあります。

子供の自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、**多様な教育活動**を通して、子供が主体的に課題に挑戦することや、多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感することが大切です。

### 多様な教育活動の具体例

～『生徒指導の実践上の4つの視点』から～



しまえなが先生

#### 自己存在感の感受

→自分も1人の人間として大切にされていると感じる機会の醸成

- ・1人1役の当番、係活動
- ・挨拶+一言（名前や会話）
- ・ありがとうメッセージ
- ・教師の肯定的な言葉かけ



#### 共感的な人間関係の育成

→互いに認め合い・励まし合い・支え合える集団づくり

- ・よいところ見付け
- ・聞き手を育てる（聞き方モデルの提示）
- ・ロールプレイ（相手の考えを理解）
- ・教師が手本となり子供に共感的な関わりをする



#### 自己決定の場の提供

→自分で考え、判断し実行する活動の設定

- ・日常生活の課題における選択肢の提示
- ・学び方の選択（道具、個人か集団か）
- ・子供主体の活動（係・委員会活動）
- ・表現方法の選択（目的や自分の得意を考慮して）



#### 安心・安全な風土の醸成

→子供たちの個性を尊重し、安心して生活できるような配慮

- ・学習規律の徹底
- ・座席の配置（位置・形）
- ・「分からない」と言える雰囲気づくり
- ・誤答や間違いの受容



# どのように進めていけばいいの？

発達を支える生徒指導は、全校で取り組むことが効果的であると言われていますが、導入するには先生方の共通理解が何より大切です。そのため、実施までに十分に時間をかけて研修を重ねて、取り組むことが望ましいです。以下に、立案してから実施までのシュミレーションを示したので、これを参考に、各校の実態に合わせて、計画的に取り組みましょう！

PDCA  
サイクルを  
確立しよう！

期間	立案期間 (R8年度) 【4月～3月】	共通理解期間 (R9年度前期) 【4月～9月】	実施準備期間 (R9年度後期) 【10月～3月】	本格実施 (R10年度) 【4月～】
内容	①管理職及び教職員と目的や意義などの共有 ②教職員で生徒指導提要及び先進的な取組についての研修 ③推進スケジュールの提示と、コアチームの設立	①発達支持的生徒指導の取組を学校経営案へ位置付け ②コアチームで「行動目標チャート」の原案を作成 ③「行動目標チャート」を全教職員で、実践的内容に改善	①学年等で、「行動目標チャート」で実践する内容の検討 ②試験的に実践 ③実践の振り返りと修正・検証	①本格実施し、「行動目標チャート」の修正及び改善 ②児童会・生徒会の活動の中に位置付け、全校に呼びかけ ③児童生徒の意見で「行動目標チャート」を改善

「発達を支える生徒指導」の主役は子供たちです。まずは先生方が中心となって土台となる計画を立てますが、大切なのは「アップデート」です。実際に取組が始まったら、子供たちの反応や先生方の気づきをアンケートなどで積極的に吸い上げます。その声を反映して、行動目標をさらに分かりやすく、実態に即したものと修正していきます。

## 行動目標 チャートって？

「望ましい行動」を育てるため、学校生活の各場面で、期待する行動を子供たちと共有し、教職員が組織的に子供たちの自発的な行動を褒め、認める目標です。例えば「3つの観点」を「自ら実践する子」「心豊かな子」「鍛える子」に設定して行動目標チャートを作成すると、以下のようになります。  
 ※観点や内容は学校や子供の実態に応じて柔軟に設定します。

場面	小・中	自ら実践する子	心豊かな子	鍛える子
登下校	小学校	・時計を見て「何時何分に家を出る」と決めて行動しよう。	・お家の人や友達、地域の人に自分から進んで「おはようございます」と挨拶をしよう。	・通学路を守って登下校しよう。 ・横断歩道の前では「止まる、見る、待つ」をしてから渡ろう。
	中学校	・時間を守って登校し、始業チャイム前に着席しよう。 ・始業前に、1日の見通しを立てて準備をしよう。	・地域の人にも進んで挨拶をしよう。	・交通ルールを守り、安全に注意して登下校しよう。 ・横断歩道のある登下校ルートを考えよう。
授業中	小学校	・次の時間の学習道具を机の上に出してから、休み時間に入ろう。	・話している人におへそを向け、目と心と耳で話を聞こう。	・背筋を伸ばし、足の裏を床につけて学習しよう。
	中学校	・「授業スタンダード」を意識して授業に臨もう。 ・授業内容を記録して、復習に活用しよう。	・先生や友達の発言に反応しよう。 ・他人の意見と自分の考えの相違点を認め合おう。	・姿勢を正し、授業に集中しよう。 ・イスに深く座ろう。
給食	小学校	・手洗いを済ませたら、給食ナプキンを机の上にしこう。 ・目標時間を決めて、「準備」「食べる」「片付ける」をしよう。	・「いただきます」「ごちそうさまでした」を作ってくれた人や準備してくれた人に思いをこめて言おう。	・苦手な食べ物にも挑戦してみよう。
	中学校	・当番としての責任を果たそう。 ・丁寧に給食配膳に取り組み、美しく盛り付けよう。	・感謝の気持ちを込めて、食前食後の挨拶をしよう。 ・食事のマナーを守り、周りへの気配りをしよう。	・栄養を考えてバランスよく食べよう。 ・苦手な食べ物にも挑戦しよう。

子ども支援研究グループで作成した行動目標チャートの【全体版】はこちらから



## 子供も教師も、トライ＆エラーで！

発達を支える生徒指導は、個々の子供の特性に応じた柔軟な対応が求められるため、時には判断に迷ったり、思うような結果につながらなかったりすることもあるでしょう。

そんな時に試されるのが、停滞を受け入れ、知恵を出し合って新たなアイデアを生み出す「組織の力」です。子供たちが多くの失敗を経験して育つように、私たち教師もまた、試行錯誤を繰り返しながら成長していく。そのプロセスこそが、発達を支える生徒指導を現場に浸透させていく鍵となります。